

自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0170503874		
法人名	株式会社 アクティブ・ケア		
事業所名	グループホーム みのりの中の島		
所在地	札幌市豊平区中の島1条3丁目7-3		
自己評価作成日	平成22年12月8日	評価結果市町村受理日	平成23年1月24日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

入居者の認知症状や性格は人それぞれですので、それを踏まえながら個々に沿った対応を心かけています。また、ご家族の来訪時には挨拶だけではなく、近況を報告し、安心してもらうと共に問題が起きた時には意見等を聞くなど、一緒に解決に向けて進んでいけるよう協力をお願いしています。現在すずらん館のスタッフは、年齢層が高い者が多く、そのため介護全般において、長所、短所が明確に出ているように思えます。若いスタッフのアイデアを吸収しながら、人生経験豊かな知識をうまく活用し、入居者を支援しています。

事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度の公表センターページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	<a href="http://system.kaigojoho-hokkaido.jp/kaigosip/infomationPublic.do?JCD=0170503874&amp;SCD=320">http://system.kaigojoho-hokkaido.jp/kaigosip/infomationPublic.do?JCD=0170503874&amp;SCD=320</a>
-------------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社 サンシャイン
所在地	札幌市中央区北5条西6丁目第2道通ビル9F
訪問調査日	平成23年1月13日

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

地下鉄中の島駅から徒歩5分ほどの交通至便なところにあり、車のない家族でも楽に訪問できる。駅界隈は商店街で買物その他の便利もよい。また、すぐ近くに豊平川が流れ、桜の名所開発土木現業所も近く、風光明媚である。建物は平成18年に開設された新しいもので、明るく清潔で快適な住まいである。職員は19歳から59歳までと年齢幅が広いので、若い職員の斬新な発想や行動力で活力を発揮する一方、年配職員の経験豊かな知恵を生かしながら長所短所を補い合い、質の高い介護サービスを実現している。地域とのつながりを大切にする理念に基づいて、町内会活動への参加など多彩な交流関係を築いている。各種行事や活動に参加する、夏祭りを共同開催する、町内会開催の旅行会には数名の利用者が職員とともに参加するなど、広く深く地域に溶け込んでいる。多様な研修など、人材の育成には法人ぐるみで大きな力を注いでいる。新入職員の初期ならびに継続研修はもとより、管理者、一般職員を含めて年間延べ30回にも及ぶ外部研修への参加、「学びの会」と称する法人内の定期学習会ほか、多くの体系的な教育が行われている。また、高校新卒を採用して基礎から教育して人材を育てるなど、意欲的な取り組みも行っている。

サービスの成果に関する項目(アウトカム項目)				項目 1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します			
項目		取り組みの成果 該当するものに印		項目		取り組みの成果 該当するものに印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らさせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価及び外部評価結果

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>理念に基づく運営</b>					
1	1	理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所独自の理念を全職員が常に念頭に置き、実践につなげている。	3年ほど前に職員が考案して、「穏やかな心でその人らしい毎日を安心して過ごせる生活環境、地域に溶け込み、いつまでも笑顔あふれる温かい暮らしを」という内容の独自の理念を作り、ホーム内要所に掲示し、朝礼で唱和するなど浸透し、実践に生かされている。	
2	2	事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	ほとんどの町内行事や会合にスタッフや入居者が参加し、町内会の一員として交流している。	町内会に加入して、各種の行事、清掃や花壇整備などの活動に参加している。ホームの庭で行う夏の交流会は、町内会と共催で近隣住民を含め約80名もの参加を得る大きな行事となっている。町内会の日帰り旅行には利用者数名が参加して住民とともに楽しんでいる。	
3		事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	町内行事に参加、又は入居者と共に参加することで、理解や支援の方法を地域の人々に向けて活かしている。		
4	3	運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議では活動報告を行い、家族、町内会、民生委員、包括の方々意見聞きサービス向上に活かしている。全家族に運営推進会議の開催を連絡しより多くの家族の参加を得られるように努めている。	運営推進会議は2ヶ月ごとに定例で開催され、行事や活動、自己評価・外部評価の報告、各種の専門知識・情報の提供などを行っている。地域包括支援センターが各種の相談に乗り、民生委員が体験を語り、消防署が災害対策の講和を行うなど、活発に運営されている。	
5	4	市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	管理者が市の担当者の元を訪問し、情報提供を行うことで協力関係を築くように取り組んでいる。	市役所への各種の報告、書類提出には必ず足を運んで訪問し、意見交換を行っている。ただし市の担当者が多忙で、十分な時間を取った話し合いや協力関係の構築には困難な面がある。	
6	5	身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	研修などで身体拘束に関する知識を深め、正しく理解し拘束のないケアに取り組んでいる。	北海道及び札幌市が行う、身体拘束防止研修には管理者が必ず参加し、その内容を全職員に伝えて知識を共有している。家族が安全面からベッド柵などの拘束的な処置を要望する場合でも、趣旨を説明して回避している。建物がほかの事業所と共用であるため外への出口は施錠しているが、フロアごとの出口は無施錠である。	
7		虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃されることがないように注意を払い、防止に努めている	社内には身体拘束・虐待防止委員会が設置されており、虐待を見逃さないよう注意を払うと共に、職員全体にも周知している。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	管理者は日常生活自立支援事業や成年後見制度の研修に参加し、職員も機会があれば参加できるようにしている。		
9		契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約や解約時は充分時間をかけ説明し、疑問や質問等には理解、納得されるまでお答えするよう努めている。		
10	6	運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	入居者には意見が言いやすいような環境作りを心かけている。また、家族には来訪時に要望などはないか尋ね、意見等がある場合は職員全体で話し合い運営に反映させている。	利用者には絶えず声をかけて意見を聞き出すように努めている。家族が来訪した時は必ず職員が対応して意向を聞き出すようにしている。家族は利用者の服装や日用品のことなど小さなことでも気軽に意見や希望を表明している。	
11	7	運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	代表者には社内グループウェアで自由に意見が述べられるような体制になっている。また、ミーティングで職員が管理者に意見を述べたり、個別面談の場を設け反映させている。	職員は代表者に対して社内の情報ネットワーク(グループウェア)を通じて自由に意見発信できるシステムが用意されている。ミーティングでは運営に関わる意見も自由に発言しており、管理者から提案し意見を求めている。	
12		就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	資格手当や報酬、査定制度での賞与など、スキルアップの励みになっている。		
13		職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	外部の研修の参加を支援していることはもちろん、社内に研修委員会や学びの会があり、働きながらトレーニングができるよう支援している。		
14		同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	社外研修の参加を推進したり法人内のグループホーム間で職員の相互交換研修を行い、質の向上を図っている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		<p>初期に築く本人との信頼関係</p> <p>サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている</p>	<p>入居者の不安をなくすように声掛けや会話を多くし信頼関係に努めている。</p>		
16		<p>初期に築く家族等との信頼関係</p> <p>サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている</p>	<p>ご家族と話し合う機会を設けたり、近況を月に1度はかきでお知らせしたりして、信頼関係を築けるよう努めている。</p>		
17		<p>初期対応の見極めと支援</p> <p>サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている</p>	<p>本人、家族のニーズに添った、支援に努めている。</p>		
18		<p>本人と共に過ごし支え合う関係</p> <p>職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている</p>	<p>本人の趣味や興味のある事、得意な事などを一緒にに行い、支えあいながら信頼関係を築けるよう努めている。</p>		
19		<p>本人を共に支え合う家族との関係</p> <p>職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている</p>	<p>入居者と関わりを持つ機会の少ない家族もいるが、その事情等も考慮しながら、会話し協力しあって本人を支えていくように努めている。</p>		
20	8	<p>馴染みの人や場との関係継続の支援</p> <p>本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている</p>	<p>知人、親戚などが来訪された際は、また来ていただけるような雰囲気、環境づくりを心がけている。</p>	<p>時折訪ねて来る友人がおり、温かく迎えている。馴染みの美容院などは本人の希望で利用してもらっている。墓参りなどは希望に応じて家族が同行して行っている。</p>	
21		<p>利用者同士の関係の支援</p> <p>利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている</p>	<p>ゲーム、お手伝い、家事等の共同作業で他者と関わりを持つことができるように日々努めている。</p>		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	多くは無いが関係を持続している。入院され退去された方のお見舞いなどにも行っている。		
<b>その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	9	思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	月に一度ユニット会議にて、一人ひとりの状態を話し合い、介護計画に反映させている。出来る限り本人の意向に沿えるよう努めている。	それぞれの利用者の思いや意向は、ミーティングの場で情報交換し、検討し合い、気付いたことは連絡帳で知らせ合って、理解の共有に努めている。	
24		これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居時にセンター方式にて情報の把握に努めている。		
25		暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日々ケース記録に一日の様子、心身状態の変化などを詳細に記載し把握に努めている。		
26	10	チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要の関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	関係者からの意見も取り込み、入居者本位の介護計画を必要に応じ作成している。	介護計画は、当該利用者の担当職員がケース記録・家族の要望・受診ノートなどをもとにたたき台の案を作成し、これをユニット会議にかけてほかの職員や計画作成担当で検討し、担当職員がこれをまとめ、再度計画作成担当が確認し、家族の了解を得て完成する。	
27		個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の体調の変化や状況が分かるようにケース記録に記載し、申し送り時に伝え、共有した情報を元に話し合い見直している。		
28		一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	家族の状況により、通院の送迎など柔軟に対応している。家族が来訪され、希望により同じ食事を摂って頂いたり、宿泊も可能である。		
29		地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	中学生の職業体験・ボランティアの受け入れをし、地元との交流を行っている。町内会との合同避難訓練や、消防職員の指導による避難訓練を行なっている。		
30	11	かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人や家族の希望により、受診や訪問診療などで対応している。家族の状況により受診の送迎を行っている。	かかりつけ医は本人及び家族の意向に従って決める。事業所の協力医以外をかかりつけ医とする利用者は、原則として家族が受診同行するが、事情によっては職員が同行する。家族同行の場合、医師宛に手紙を託し、受診結果は家族から詳しく聞いている。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	契約の訪問看護ステーションより毎週1回看護師が訪問し各入居者の健康管理、医療面での相談に對してのアドバイスを受けています。		
32		入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	長期入院によるADL低下を防ぐ為医師との情報交換や相談などの機会をもち、短期間で退院できるよう必要な支援を行っている。		
33	12	重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化や終末期に対する方針を定めて家族等、医師・看護師を交え話し合いを行っている。	重度化した場合と終末期の看取りについて指針があり、契約時に合意書を交わしている。実際に危ぶまれる状態になった時は、医師、看護師を交えて改めて対応について相談している。終末期の看取りをする体制にはなっているが、これまでに事例は経験していない。	
34		急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	社内に研修委員会があり、札幌市消防局による普通救命講習を職員が受講している。また、社内の看護師が講師の緊急時対応の研修を受け実践力を鍛えている。		
35	13	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	町内会役員も入っている緊急連絡先を活用し町内会参加のもとで昼夜両面で避難訓練をしている。運営推進会議でも地域との協力体制の話し合いをしている。	災害訓練は年2回、昼間及び夜間を想定して消防署の参加、協力のもとに行っている。災害時には町内会長を通じて地域住民の協力が得られる体制ができており、訓練にも10人ほど参加している。近くスプリンクラーの設置も決まっている。	想定災害は火災のみであるが、地震、水害についても危険性の確認と必要な備え、訓練の検討を期待したい。また非常時の避難場所の確保、備品の準備についても検討を期待したい。
<b>. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	14	一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	一人ひとりの尊厳や、プライバシーを尊重し個々に対応している。ケース記録はドアつきの見えない所に保管している。	慣れ親しんだ関係性の中で、日々の言葉かけや語調が適切なものとなっているかをミーティングで確認し合っている。個人記録類は保管場所を取り決め管理している。	
37		利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	入居者一人ひとりの力に合わせ、思いや希望を見極め、生活の色々な場面で、入居者自身が選択しやすいよう支援している。		
38		日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	職員の都合や決まりに入居者が合せるのではなく、職員が入居者一人ひとりのペースを大切に、その人らしく日々を過ごすように支援している。		
39		身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	その人らしい身だしなみ、おしゃれは個人の好みや希望に応じて見守り、必要な支援を行っている。事前に入居者へカット・パーマ・毛染め等の希望を聞き、訪問理美容に来院してもらっている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	15	食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	入居者の状況に応じて、食事の準備や配膳、片付けなどを職員と一緒にやっている。	職員は法人の調理講習会で高齢者に即した食事作りを学び、工夫を凝らしたり、利用者の嗜好などを献立に反映している。行事食や外食、ベランダでの昼食や誕生会では、本人の意向の内容で食事会を企画している。	
41		栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	一人ひとりの食事量や水分量を記録し、摂取量が少ない時は、声かけを行ったり、入居者の状態に合わせた調理方法を工夫した支援を行っている。		
42		口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	食後、口腔ケアの声かけを行い、出来ない方は、洗面所まで誘導し、介助している。		
43	16	排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄時間を記録し、食事前には、その都度、声かけ、トイレ誘導している。	職員は利用者の排泄パターンを把握して声かけや誘導を行い、入居後に衛生用品の使用頻度が減った利用者や自らトイレに向えるようになったケースがある。心身の負担感に配慮し、自室でのポータブルトイレの利用や夜間帯も個々に応じた支援に努めている。	
44		便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	一日1,000cc以上の水分摂取を目標に声かけし、テレビ体操や下肢筋力アップ体操等もやっている。		
45	17	入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	入居者の体調を確認し、時間帯など希望に沿えるよう支援している。	基本的に水・日曜日を除く毎日湯を沸かし、個々の状態や希望により午前から午後を通じて入浴支援を行っている。併設法人の大浴場も時折利用しており、複数人で銭湯気分になり、ゆったりとした入浴も味わっている。個々に沿った入浴の声かけをしている。	
46		安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	夜間安眠できるよう、日中の活動量を増やしている。		
47		服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬ファイルを作り、職員で薬の情報を共有している。また、服薬者、確認者を作り、服薬のチェックを行ない、誤薬防止に努めている。		
48		役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	散歩や月に1度、外出行事を企画し、楽しんで頂いている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	18	<p>日常的な外出支援</p> <p>一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している</p>	<p>本人の希望に応じ、日常的に散歩・買い物等にかけている。</p>	<p>季節を堪能したり社会見学などの全体的な外出は行事企画を立てて実施している。天候のよい日は積極的に散歩に出かけている。個別外出に力を注ぎ、町内会旅行への参加支援や日帰り温泉、地下鉄に乗り込んでデパートでの買い物も楽しんでいる。映画が好きな方が鑑賞できるよう、外出について計画中である。</p>	
50		<p>お金の所持や使うことの支援</p> <p>職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している</p>	<p>小額のお金を管理している方もいるが、家族よりお預かりしているお小遣いを買い物時に手渡し、自分で支払うことができるよう支援している。</p>		
51		<p>電話や手紙の支援</p> <p>家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている</p>	<p>家族や友人等自由に電話が出来る、外部からの電話は居室で会話ができるよう子機電話を利用している。</p>		
52	19	<p>居心地のよい共用空間づくり</p> <p>共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>	<p>居間のソファでテレビを観たり、談話をするなど、居心地良く過ごせるよう配慮している。また、季節が分かるように居間や玄関には季節ごとに装飾を変える工夫をしている。</p>	<p>リビングダイニングルームは広く、小上がりの和室テーブルは利用者が思い思いに活用できるようになっている。季節の装飾を施し温かい雰囲気があり、天井の照明も居心地のよい照度となるよう数の設置を工夫している。全体的にバリアフリーで身体機能に配慮され、居間と一体感のあるベランダは景色を眺めたり外気浴や飲食できる環境も整えている。</p>	
53		<p>共用空間における一人ひとりの居場所づくり</p> <p>共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている</p>	<p>食席は、気の合う入居者同士とお話ができるようセッティングをしている。</p>		
54	20	<p>居心地よく過ごせる居室の配慮</p> <p>居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>	<p>本人の愛用されている物や、趣味活動が続けられるような空間作りをしている。</p>	<p>入口に暖簾やメモリーボックスを設置して、プライバシーへの配慮や自室と分かる工夫をしている。馴染みの家具や日用品の持ち込みを奨め、新品の場合は単筒にラベル表示をするなどの配慮をしている。居室で趣味のミシン掛けや読書などが安心してできるよう継続的にサポートしている。</p>	
55		<p>一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり</p> <p>建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している</p>	<p>トイレ内には、それぞれの名前が入ったかごを置き、必要な物品を入れ分け易くなっている。</p>		



自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0170503874		
法人名	株式会社 アクティブ・ケア		
事業所名	グループホーム みのり中の島		
所在地	札幌市豊平区中の島1条3丁目7-3		
自己評価作成日	平成22年12月8日	評価結果市町村受理日	平成23年1月24日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

「すずらん館ユニット」に同じ
----------------

事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度の公表センターページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	<a href="http://system.kaigojoho-hokkaido.jp/kaigosip/infomationPublic.do?JCD=0170503874&amp;SCD=320">http://system.kaigojoho-hokkaido.jp/kaigosip/infomationPublic.do?JCD=0170503874&amp;SCD=320</a>
-------------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社 サンシャイン
所在地	札幌市中央区北5条西6丁目第2道通ビル9F
訪問調査日	平成23年1月13日

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

--

. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) 項目 1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します							
項目	取り組みの成果 該当するものに印	項目	取り組みの成果 該当するものに印	項目			
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

(別紙4-1)

自己評価及び外部評価結果

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>理念に基づく運営</b>					
1	1	理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所独自の理念を全職員が常に念頭に置き、実践につなげている。		
2	2	事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	ほとんどの町内行事や会合にスタッフや入居者が参加し、町内会の一員として交流している。		
3		事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	町内行事に参加、又は入居者と共に参加することで、理解や支援の方法を地域の人々に向け活かしている。		
4	3	運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議では活動報告を行い、家族、町内会、民生委員、包括の方々に意見を聞きサービス向上に活かしている。全家族に運営推進会議の開催を連絡しより多くの家族の参加を得られるように努めている。		
5	4	市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	管理者が市の担当者の元を訪問し、情報提供を行うことで協力関係を築くように取り組んでいる。		
6	5	身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	研修などで身体拘束に関する知識を深め、正しく理解し拘束のないケアに取り組んでいる。		
7		虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	社内には身体拘束・虐待防止委員会が設置されており、虐待を見逃さないよう注意を払うと共に、職員全体にも周知している。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	管理者は日常生活自立支援事業や成年後見制度の研修に参加し、職員も機会があれば参加できるようにしている。		
9		契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約や解約時は充分時間をかけ説明し、疑問や質問等には理解、納得されるまでお答えするよう努めている。		
10	6	運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	入居者には意見が言いやすいような環境作りを心かけている。また、家族には来訪時に要望などはないか尋ね、意見等がある場合は職員全体で話し合い運営に反映させている。		
11	7	運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	代表者には社内グループウェアで自由に意見が述べられるような体制になっている。また、ミーティングで職員が管理者に意見を述べたり、個別面談の場を設け反映させている。		
12		就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	資格手当や報酬、査定制度での賞与など、スキルアップの励みになっている。		
13		職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	外部の研修の参加を支援していることはもちろん、社内に研修委員会や学びの会があり、働きながらトレーニングができるよう支援している。		
14		同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	社外研修の参加を推進したり法人内のグループホーム間で職員の相互交換研修を行い、質の向上を図っている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居前の面談から本人の気持ちや不安を聞き、入居されてからも会話する時間をできるだけもち、何でも話せる関係づくりに努めている。		
16		初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	家族からのお話を十分に傾聴し、来訪しやすく相談や要望を話しやすい環境になるよう努めている。		
17		初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	ホームの支援のみにこだわらず、他のサービス利用も視野に入れて本人・家族の希望を見極め、必要な支援を受けられるよう対応に努めている。		
18		本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	入居者にもそれぞれ得意分野で助けてもらい、一方的にしてもらえばかりではなくお互い助け合える関係づくりに努めている。		
19		本人を共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	常に家族と情報を共有し、相談しながら本人を支えていくように努めている。		
20	8	馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	本人の希望を取り入れ馴染みの人といつでも電話ができるよう計らい、来客者も来やすい環境づくりに努めている。		
21		利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず、利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	食席の配置を入居者の人間関係に配慮して変更したり、同じ作業を協力して行い支え合える関係ができるよう努めている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	サービス利用終了後も相談などをしていただけるようご家族に声かけを行っている。		
<b>その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	9	思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	本人の意向に出来るだけ沿うように、介護計画に反映している。会議などで話し合い検討し、入居者の意向に沿うように努めている。		
24		これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	センター方式などの情報シートや家族との面談などでおおよその生活歴などを把握し、入居後の会話や仕草から、暮らしぶりを把握し、記録に残している。		
25		暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	常に、見守り観察を行い、心身の状態の変化や体調の不良を報告と記録をする事で、スタッフ全員が把握出来る体制をとっている。		
26	10	チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	入居時から、家族からの情報や意向、本人の希望を素にアセスメントを実施し、本人がより自分らしく生活できるように介護計画を来訪時の家族やスタッフ全員で話し合い、作成している。		
27		個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	ケース記録に日々の生活を記載し、食量や排泄、身体の変化などの情報を常にスタッフ全員が把握し、ご家族とも情報の共有を行っている。		
28		一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	家族や本人の状況によって、通院や送迎などに対応している。階下のデイサービスと共に行事を行っている。		
29		地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	本人の意向や必要性に応じて、地域で行っているレクリエーションや町内会の行事などに参加している。		
30	11	かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	月に2回、提携クリニックの医師の訪問診療を受け、緊急時にはすぐに対応できる体制になっている。但し、本人やご家族が希望する病院への受診は職員が同行するなどの支援を行っている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	職員と訪問看護師が連携をとり、健康管理や状態の変化の把握に努めている。		
32		入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	職員がお見舞いに行き状況を把握し、出来るだけ早く退院できるよう、医師や家族と相談し戻ってからのリハビリ等の支援が出来るように準備を行っている。		
33	12	重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化や終末期に向けた対応を家族、医師、看護師を交え話し合い、統一した方針で対処するよう支援している。		
34		急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	社内に研修委員会があり、札幌市消防局による普通救命講習を職員が受講している。また、社内の看護師が講師の緊急時対応の研修を受け実践力を鍛えている。		
35	13	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	町内会役員も入っている緊急連絡先を活用し町内会参加のもとで昼夜両面で避難訓練をしている。運営推進会議でも地域との協力体制の話し合いをしている。		
<b>. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	14	一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	一人ひとりの誇りや、プライバシーを尊重し個々に対応を努めている。面会簿は単独にし、個別の情報はドアがついて見えない所に保管されている。		
37		利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	日頃からコミュニケーションを多くとり、訴えがあった時には傾聴し、表情を観察し、入居者本人が決められるような声かけ、配慮を行っている。		
38		日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	買い物や散歩など、個々の状態や思いに配慮し、出来るだけ希望に沿うように柔軟に対応を努めている。また、好きなこと、得意なことを発揮できるような場面作りをしている。		
39		身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	訪問理美容や外の美容院を利用し、入居者本人の好みの髪型にしてもらっている。外出時や希望時には、お化粧品やマニキュアを楽しんでもらえるように支援を行っている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	15	食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	入居者の意見や食後の感想などを参考に、食事が楽しめるよう献立を立てている。また、入居者と一緒に食事の準備や食後の片付けをしながら料理についてアドバイスを受けている。		
41		栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	一人ひとりのケース記録に水分や食事量を記録し、個人の状態の把握に努めている。メニューは職員が立てたものを社内の管理栄養士に見てもらい、指示を受けている。		
42		口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後に、歯磨きの声掛けや介助を行い、口腔内に異常があるときは訪問歯科に連絡し治療に繋がっている。		
43	16	排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄チェック表を活用し、入居者の排泄感覚を把握して必要時にトイレ誘導している。トイレ内も見守りが必要な入居者にはできない所だけをお手伝いするように心かけている。		
44		便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	水分を適切に摂るよう勤め、運動不足解消のため毎日体操を行っている。また、乳製品や食物繊維の多い食品を提供するなど、自然排泄を促す工夫を個々に応じて行っている。		
45	17	入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるよう、時間帯や曜日を工夫している。また、体調に応じて入浴日を変更したりなど臨機応変に対応している。		
46		安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	日中はなるべく活動的に過ごしていただけるよう声掛けし、夜間眠れない場合は居室やリビングでお話を傾聴し、落ち着いて休めるよう努めている。		
47		服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬が処方されるごとに必ず説明書を読み、内容確認している。薬の変更があった場合は専用ノートに記載し、服薬後症状に異常があるときは医師に連絡し指示を受けている。		
48		役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	縫い物、食事の支度、掃除、食器洗い、洗濯物畳み等の役割支援や、貼り絵、合唱、DVD鑑賞、おやつ作り等の趣味支援、外出行事支援などを工夫して行っている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	18	<p>日常的な外出支援</p> <p>一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している</p>	<p>ご本人の希望や天候、体調に応じて近隣の散歩や外食、買い物等を行っている。</p>		
50		<p>お金の所持や使うことの支援</p> <p>職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している</p>	<p>お金をある程度自己管理している方や、職員が買い物に同行し支払いするまでの過程を見守りする方など、入居者の状態に応じて支援している。</p>		
51		<p>電話や手紙の支援</p> <p>家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている</p>	<p>ご本人の希望時に、相手に対する時間帯も考慮しながら電話を取り次ぎ、人目を気にせず話ができるよう子機を使い居室で話して頂いている。手紙や葉書のポスト投函等も希望時に対応している。</p>		
52	19	<p>居心地のよい共用空間づくり</p> <p>共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>	<p>テレビは付けっぱなしにせず、音楽に切り替えたり、植物や花を飾りメリハリを付けている。壁や窓には季節を感じられるような飾り付けをし、運動器具も設置し楽しみながら体力の維持が出来る環境作りをしている。</p>		
53		<p>共用空間における一人ひとりの居場所づくり</p> <p>共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている</p>	<p>畳にちゃぶ台と座布団を置き、冬には季節を感じられるようこたつ布団を掛けている。ソファの位置を入居者の様子を考慮し替えたり、気のあった入居者同士で談話や昼寝をしたり、脳トレや制作を楽しむような場所を工夫している。</p>		
54	20	<p>居心地よく過ごせる居室の配慮</p> <p>居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>	<p>自宅でご本人が使い慣れた家具など馴染みのある物を配置している。居室の掃除を見守りながら、ご本人から設置場所を替えたい希望がある時は移動させ心地よい生活が出来るような雰囲気を作っている。</p>		
55		<p>一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり</p> <p>建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している</p>	<p>廊下、トイレ、浴室に手すりを設置。入浴時には湯船や洗い場に滑り留めマットを使用している。ホール内は歩行がしやすいよう、通りやすいスペースを確保している。</p>		



目標達成計画

事業所名 グループホームみのり中の島

作成日：平成 23年 1月 19日

市町村受理日：平成 23年 1月 24日

【目標達成計画】

優先順位	項目番号	現状における問題点、課題	目標	目標達成に向けた具体的な取り組み内容	目標達成に要する期間
1	35	現在、年2回の避難訓練を、町内の方々にも参加協力して頂き行っていますが、建物外に避難した後の待機場所が決められていなかったこと。	避難後の待機場所を確保する。	運営推進会議などで、町内にある避難場所の確認をする。	1/18の運営推進会議で確認済み。
2		天災に関して話し合った事がなく、知識も乏しかった。また災害時のための備品等も準備をしていなかったこと。	天災に関する知識を学ぶと共に、災害用備品も準備する。	区の消防署で天災における対策を相談し知識を得る。また、必要な備品等についても意見を聞く。	3ヶ月
3					
4					
5					

注1)項目番号欄には、自己評価項目の番号を記入して下さい。

注2)項目数が足りない場合は、行を追加して下さい。